

## 五、旧田林業の特徴

旧田並行に於ける林業の特徴とする處は用材の生産を主目標とする榎木苗に依る杉の造林なり。ヒノキマツの造林は僅少にして殆んど杉を主とする。杉の榎木造林は山比榎林と床榎苗に依る造林との二方法にして約40年前迄は殆んど榎林造林が行われたるも、其後床榎苗による造林法に及び現在にては津江方面の一部を除き大部分床榎造林が行われ居り。

## ヒノキ苗養成法の革新について

鹿屋営林署 楠本 司

我が九州に於ける、造林法の特徴を尋ねる人があつたならば、吾々は笑口同音に、それはスギの榎木造林であると答ふるでございましょう。

然るに、これ迄ヒノキは専ら実生苗を養成して造林して参つたのでありますが、ヒノキの種子は善苗の産があり、種子の採取は割に善好し、適地適木を目標とした養苗計画が中々むづかしいのであります。

又、初より種子の採取は出来ても、まさ付や、床苗、培養などの止争が中々面倒でありまして、経費も相当高く、養苗の両長喜には優され勝りし、又、山出の期間には少くとも二年を要しますので、ヒノキ実生苗養成は、造林用苗木養成の中で、最も手数を要するもの、一つであります。そこで私はスギと同時ヒノキ榎木苗の養成を考へ、25年度から本格的に開始したのであります。

先ず、ヒノキ榎木苗養成の長所を述べますと、次の如きであります。

- (1) ヒノキ苗木は、スギ榎木と同様、九州の気候條件に適した方法である。
- (2) ヒノキ種子を全然採取出来ない時も、養成することが出来る。
- (3) ヒノキの優良品種のみを養成することが出来る。
- (4) 榎木方法が簡單で、養苗費が比較的低廉である。
- (5) 榎木は小さいものを採取するから、母樹を衰弱することが少く、又1本の母樹から20〜30本も採取することが出来る。
- (6) 1年間で山出するから、養苗計画が簡單である。

次にヒノキ榎木の試験結果と、実行經過を述べることに、致します。

先づ私は、ヒノキ榎木を本格的に実施する前駆として昭和25年3月高崎営林署大迫苗圃で、ヒノキ榎木試験を行いました。此はヒノキ苗木の樹冠上半部の丈夫さうな糖をとり、長さ22cm内外、重さ6g内外の太さとし、之を100g位挿付け、毎日に日覆を2枚重ねてと

りつけ 銅方から垂い光線が直射せぬ様に日覆の両端を両側に空けしました。  
かくて除草を3回と、6月中旬頃に追肥として腐安を少し施したので5月初旬から新芽が少しづつ伸びて来ました。其後25年12月採取してみました所、次の様な結果が得られました。

区 分	本 数	少 合
挿付総本数	109	
内	活着発根せるもの	74 67.8%
	竹 主 苗	25 22.9
	根切虫による被害	10 9.3

以上の様な成績でありまして根の伸長5~32cm 平均17.7cm、枝葉の伸長は3~22cm 平均11.8cm、木口から上の長さは16~41cm、平均28.3cm、1本の重量4~15g、平均8gであります。活着せるもの、中、山行に供し得るものは、約7割で、1本当重量は大体1g以上であります。

次に25年夏秋前に於ける薯蕷等の、ヒノキ種子採取が余り悪くなく1kg当4585円と云う高いものにつきました。

以上の様に、挿木の成績は非常によろしく、一面種子採取の成績は悪くありませんでしたから、ヒノキ苗養成は従来の様に実生苗ばかりに よることは一考を要し、今後は挿木苗養成も大いに実施することをお薦めであると考へるに至つたのであります。

次にヒノキ挿木の要領と、実行方法を述べてみたいと存じます。ヒノキ挿木の要領となる等は、次の三項であります。

- (1) 挿穂は小さい筥を使用すること
- (2) 挿穂と床土の乾燥を防ぐ爲、日覆をすること。
- (3) 採取した穂は直ちに挿付けること。

実行方法と致しましては、

- (1) 挿穂採取の母樹は、樹令10~30年内外の主長旺盛なる健全木を選び、挿穂は樹冠上半部の軸の太い、赤味がかつた色天の若いものを採取し、樹冠下半部の葉の枯れた細い葉の若いものは宜しくありません。

山取の穂は長さ30cm位とし、半分位葉を残して100本ずつ結束し、採取後は直に清流水に浸し、採取当日か少くとも翌日迄には苗畑に送達を要します。

1人1日の切量は1,500~2,000本位であります

- (2) 穂作りは、小鋸、小刀、鋸定鉄等を使用し、長さ20cm内外に切断し、半分位葉を残して、後は丁寧に切りとり、穂作りは、屋内、樹陰等の陽光の直射せぬ所で行い、仕上げた穂は直に木口モ水桶に浸しておきます。

1日1人の切量は2,000本内外であります。

- (3) 挿付は巾13cm、長さ20cm、の板文器を用い間隔を6cmとします。挿付の孔は山側を以て9cm内外の深孔を作り、之に挿穂の木口を孔底に密着する様に、間隔

に並べて、上を半分位入れて堅く踏み付け、更に上を充分寄せて堅く踏み付けます。  
1人1日の作業は1,500本〜2,000本位であります。

- (4) 挿付と同時に日覆をとりつけます。日覆は今迄まき付床に使用したものを2枚重ねて横にかぶせ、両端を床の両側に垂れ下けて、側方からも強い光線が直射せぬ株に致します。麦稈で藪んで作れば価格も安いし、虫害の度合も下度宜しい株であります。
- (5) 四月から五月にかけては空気が乾燥する日が続きますので、こんな時には隔日に加露で灌水をします。又六月中下旬と八月に中旬に追肥として硫酸を反当り量位づつ施用します。日覆は九月中下旬にはとり除いて、活着した苗に充分日光を当て、寒害にかゝらぬ株に致します。
- (6) ヒ)キ挿付は日覆をする際、床地が陰湿になつてネキリムシの害が発生し易いから挿付に当つてはナフタリン、硫酸粉末を比中に撒布します。又イザリヤコガネ菌を反当り量位は理想的であります。
- (7) 挿付床は、蒸り気のある箇所や、まゝ前に相当強い壁のある所は、其儘挿付けてもよいが、盛上したり地盤が深かったり、稍乾燥性の所は地突きで突き固めてから挿付けると宜しい株であります。

## アカシアモリシマの養苗

特に発芽促進について……予報

福岡縣農林試験場 中島 亮 諭

アカシアモリシマは樹皮に多量のタンニンを含むこと、材はパルプ資材<sup>(1)</sup>或は薪材材になり、しかも幼時の生長が極めて速いから造林価値が非常に高いものである。

しかし本樹造林の難点は山出し苗の活着の困難なことで、これは細根が少いこと、今一つは葉面からの飛散が大であることに因つてである。

細根の多い苗を育成するために対策をする必要があるため種子をなるべく一斉に発芽させる爲に試験を行ったのでここに報告する。

### ① 種子の活打検定

硬実であるこの種子を発芽促進してその初根を確むるために過酸化酵素をクアヤク精の反応によつて検出したところ92%〜98%の反応を示したので大体95%程度活力があるものと見られた。

### ② 硬実保育率

45日間水の中に入れて膨大した種子の数は次の通りで、クス、シラハギ等に較べて着